

湾口防波堤で高さを低く

内湾
防潮堤

背後の浸水リスクは拡大

気仙沼市の内湾地区で計画している防潮堤の高さについて県は5日、湾口防波堤を設置することで現計画の海拔5・2㍍を最大3・8㍍まで下げられることを住民に説明した。湾口防波堤は海拔5㍍の高さで神明崎―柏崎間に設置し、1㍍の余裕高も無くすることが前提条件。余裕高を無くせば、東日本大震災級の津波が防潮堤を越流する水量が25倍になり、背後地の浸水域が拡大するリスクも指摘した。

県がシミュレーション

県は市や内湾地区ま
ちづくり協議会（菅原
昭彦会長）の要望をも
とに、港町の一部（お



湾口防波堤が検討されている神明崎—柏崎

魚いちば周辺）で防潮
堤を設置せず、湾口防
波堤を整備した場合の
想定宮城県沖地震津波
で、それぞれ内湾地区

に必要な堤防高を算出
した。

湾口防波堤（突堤）
は、神明崎から柏崎ま
で約1200mの湾口
部に設置すると想定。
港町など周辺の堤防高
と同じ海抜5mのコン
クリート構造で、航
路への影響を考えて
開口部の幅は50mとし
た。

シミュレーションの
結果、湾口防波堤を整
備すると開口部から流
入する津波の勢いが増
すため、堤防高は現計

面より40cm低い4・8
mに下げられるだけ
だった。しかし、湾口
防波堤があることで余
裕高をなくす選択肢が
でき、3・8mまで下
げることが可能になっ
た。

県は東日本大震災級の
津波（レベル2津波）
の浸水域も報告し
た。湾口防波堤と4・

8m防波堤を整備した
場合、背後地への越流
量は8千トだが、余裕
高を無くすと20万トに
増大する。現況地盤で
試算すると、余裕高が
あれば浸水深が20〜30
mのところもあるが、
余裕高がないと2mは
どになるという。浸水
範囲も広がり、まちづ
くりへの影響が懸念さ
れる。

同協議会と防潮堤を
にいた全体会を開く予
定だ。

実現性は不透明

湾口防波堤の整備に
ついては、県が整備可
能の方針を示したが、
地域の合意形成だけ
なく、漁港利用者との
協議も必要となるた
め、実現性はまだ不透
明な状態にある。

魚町の住民からは
「レベル1津波対応の
防潮堤で、レベル2津
波の対策にすることに
無理がある」と余裕高
撤廃を求める意見が
あった一方、南町の住
民は「南町への影響を
十分に考えてほしい。
このまま結論が出せな
ければ、まちづくりも
遅れてしまう」という
指摘もあった。

同協議会と防潮堤を
にいた全体会を開く予
定だ。

の堤防高を下げるた
め、岩井崎への湾口防
波堤設置など10件の提
案があり、県に再び津
波シミュレーションの
実施を要請。協議会は
ワーキングや地区会を
開催して課題を整理し
ながら、稼働式防潮堤
の可能性も探り、今月
下旬には全住民を対象
にした全体会を開く予
定だ。